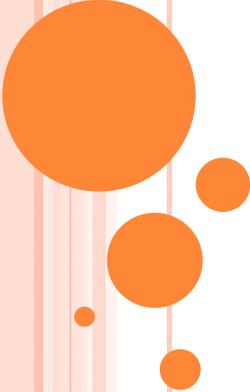


日本ならではのGAPの新たな可能性 — 環境支払いとGAPの補完的運用による「農村ブランド」の確立に向けて —



GAP Japan2016

2016年7月27日

荘林幹太郎

学習院女子大学、日本GAP協会代表理事

アウトライン

1. 持続性とは？
 2. 農業の持続性はなぜ重要なのか？
 3. 持続性確保のために重要なこと
 4. 政策主導による持続性確保の取り組み
 5. 我が国における持続性確保のためのGAPの役割
- 

1.持続性とは？

①「持続性」の意味するところを今一度振り返ると

□国連ブルントラント委員会による「持続的開発」の定義

「**将来世代が自らのニーズ**を追求する**能力**を損なうことなく、**現在世代が自らのニーズ**を満たすような開発」

1.持続性とは？

①「持続性」の意味するところを今一度振り返ると

□ポイントは「ニーズ」と「能力」

➤ 「ニーズ」は以下に大別されることが普通

経済

環境

社会

□問題は、**将来世代のニーズ**を誰が把握できるか？

1.持続性とは？

①「持続性」の意味するところを今一度振り返ると

- 「将来世代のニーズ」を把握できないとすると、「将来世代が自らのニーズを追求する能力を損なわない」ことが重要
- では、「ニーズを追求する『能力』」とは？⇒3つの「資本」
 - 人口資本 (man made capital)
 - 自然資本 (natural capital)
 - 社会関係資本 (social capital)

持続的な発展とは、これら3つの資本を将来世代に残すこと

1.持続性とは？

②重要なのは資本間の関係性

- 3つの資本が代替的なら、比較的容易
将来の3つの資本の「和」 \geq 現在の3つの資本の「和」
 - 3つの資本が補完的なら、ハードルは高い
たとえば、自然資本と、人口資本・社会関係資本が固定的な補完関係にあるとすれば・・・
将来の3つの資本の「和」=将来の自然資本+将来の自然資本 $\times\alpha$ +将来の自然資本 $\times\beta\geq$ 現在の3つの資本の「和」
- ⇒自然資本や社会関係資本の減退を人口資本で代替できない場合、それらの資本の保全が絶対的に必要

2.農業の持続性はなぜ重要なのか？

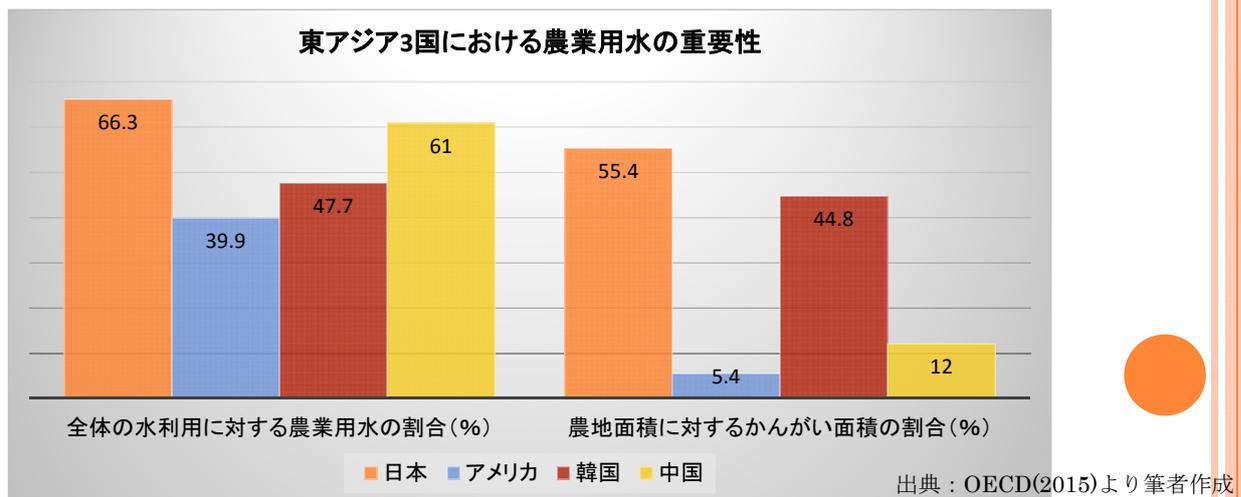
①自然資本である土地・水に最も依存する産業

□ 土地資源

- 世界の陸地面積の12%が農地、28%が森林、35%が放牧地

□ 水資源

- 世界全体の水利用の70%が農業用水。都市用水や工業用水はそれぞれ11%、19%にすぎない。



2.農業の持続性はなぜ重要なのか？

②農業自体が自然資本にマイナスの影響を与える

□ マイナスの影響

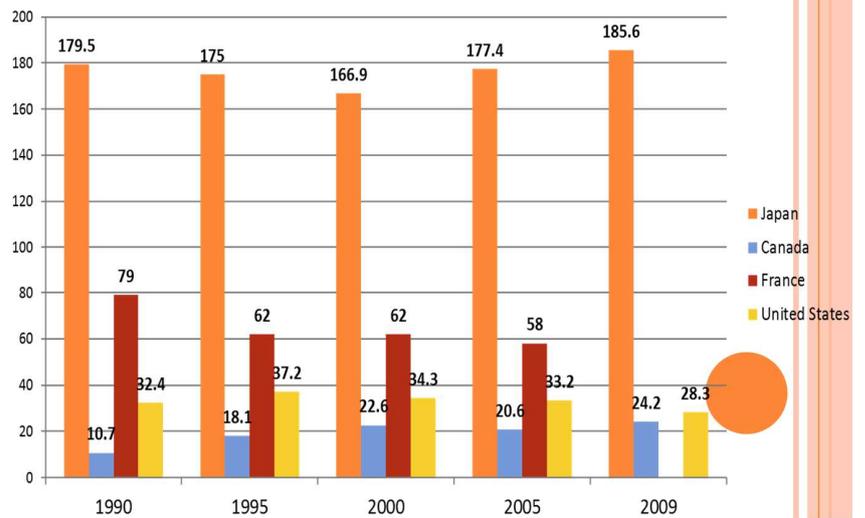
- 過放牧などによる土壌劣化
- かんがい用水の取水による河川水の減少と生態系の劣化
- 農地開発による森林破壊
- 肥料農薬や畜産廃棄物による水質汚染
- 農業からの温室効果ガスの排出

	農薬販売量 (トン:2008-2010) (A)	農地面積 (1000ヘクタール :2008-2010) (B)	(A)/(B)
日本	60291	4610	13.1
韓国:2009	18611	1799	10.3
EU15	291032	128376	2.3
米国	300429	413693	0.7
スイス	2188	1055	2.1
ノルウェイ	713	1015	0.7

農薬販売量

農地での窒素バランス(kg/ha)

出典:OECDデータから筆者作成



Global anthropogenic GHG emissions

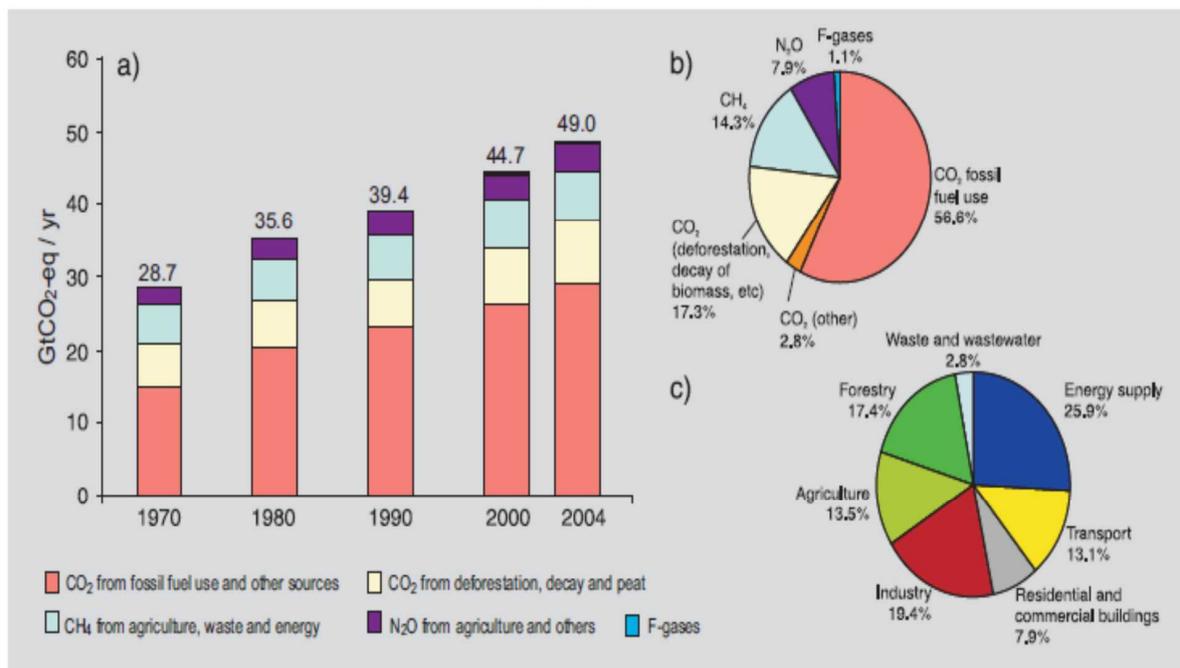


Figure 2.1. (a) Global annual emissions of anthropogenic GHGs from 1970 to 2004.⁵ (b) Share of different anthropogenic GHGs in total emissions in 2004 in terms of CO₂-eq. (c) Share of different sectors in total anthropogenic GHG emissions in 2004 in terms of CO₂-eq. (Forestry includes deforestation.) (WGIII Figures TS.1a, TS.1b, TS.2b)

2.農業の持続性はなぜ重要なのか？

③農業は自然資本にプラスの影響も与える

農業の多面的機能

- 洪水防止機能
- 地下水涵養機能
- 景観保全機能
- 土壌炭素吸収機能
- 土砂崩壊防止機能
- 生物多様性保全機能



第4回 美しい日本のむら
景観コンテスト
「時忘れの花...菜の花」
青森県横浜町



第8回 美しい日本のむら景観
コンテスト
「田園風景」
新潟県高柳町



第7回 美しい日本のむら
景観コンテスト
「田園の夕暮れ」
岐阜県岩村町

出典：農林水産省

2.農業の持続性はなぜ重要なのか？

④「持続的な農業」は大きな世界的流れ

- 多くの国の農政において持続的な農業システムの構築は最優先課題の一つ
 - たとえばEUの共通農業政策の見直しに際して聴取した大規模なパブリックコメントでは、欧州農業の目的は以下の4つに大別されるとしている。
 - ◆ 安全で健康的な農産物の供給
 - ◆ 農地の**持続的な利用**
 - ◆ 農村コミュニティや農村地域の**持続**
 - ◆ 食料安全保障
 - 米国農務省も多様な農業システムの持続性の確保に向けて、国民のニーズの充足、環境の質・資源・生態系サービスの強化、農業の経済性の維持、農家の生活の質の改善を目指すとしている。

出典：London 2012 Food Visionを筆者訳

2.農業の持続性はなぜ重要なのか？

④「持続的な農業」は大きな世界的流れ

□ ロンドンオリンピックの食材調達基準は象徴的

ビジョン		より美味しく、健康的で、グリーンなゲーム			
課題	食の安全と衛生	選択とバランス	食材調達とサプライチェーン	環境マネジメント	スキルと教育
コミットメント	模範的な食の安全・衛生基準を確保等	全ての人たちに多様な種類の食を確保等	ベンチマーク基準及び環境・倫理・動物福祉に関する意欲的な基準に基づく食材調達を確保等	ケイタリングの機材供給の最適化、温室効果ガス排出の最小化等	全てのケイタリングスタッフに最低限の「大会」に関する教育等
レガシー	商業的および教育的なパートナーシップの醸成、食品産業における持続的な原材料調達基準の引き上げ等				

出典：London 2012 Food Visionを筆者訳

2.農業の持続性はなぜ重要なのか？

④「持続的な農業」は大きな世界的流れ

□ ロンドンオリンピックの食材調達基準は象徴的

ベンチマーク基準

全ての食材は本基準あるいは同等の基準を達成するとともに、組織員会の持続的調達コードを遵守しなければならない

Red Tractor 認証, 英国グレード 1 または 2 (グレード 2 は外見のみ)。
入手可能な場合は、英国産で、旬な高品質の食材で、傷みがないもの。
英国産、レッドトラクター認証品を調達できないときは、完全なトレーサビリティを要求。
バナナ、紅茶、コーヒー、砂糖はフェアトレード認証を受けていなければならない。

意欲的基準

食材が入手可能でかつ購買可能ならば、できる限り多くの基準が達成されるべき

LEAF Marque 認証
有機農産物
倫理的に流通・生産された産品 (Fairtrade 認証および、あるいは Rainforest Alliance 認証を含む)
GLOBALGAP 認証または同等基準

出典：London 2012 Food Visionを筆者訳

3. 持続性確保のために重要なこと

① インセンティブの適切な組み合わせ

- 持続性に係る多くの事項は典型的「市場の失敗」領域
 - 外部性＋公共財
 - 共有地の悲劇
 - 公共財
- 自発的ラベリングは重要な役割を果たし得るものの、それだけでは不十分



ふゆみずたんぼ米
のラベル



米袋



米袋



米袋



魚のゆりがご水田米

出典：農林水産省、滋賀県

3.持続性確保のために重要なこと

①インセンティブの適切な組み合わせ

- 規制、課税、補助制度の適切な組み合わせが必要
 - 規制(直接支払がある場合はクロスコンプライアンス)
 - 課税
 - 環境支払い(補助金)

- 最終的なコストの負担者は？農業政策との整合性は？



2.持続性確保のために重要なこと

②面的な広がり確保

- 持続性に関する多くの項目は面的な広がりをもつ必要
 - 地下水涵養
 - 水資源の効率的利用
 - 生物多様性の保全
 - 景観



4.政策主導による持続性確保の取り組み

①レファランスレベルの明示的な設定と、規制的手法によるその遵守(クロスコンプライアンス)

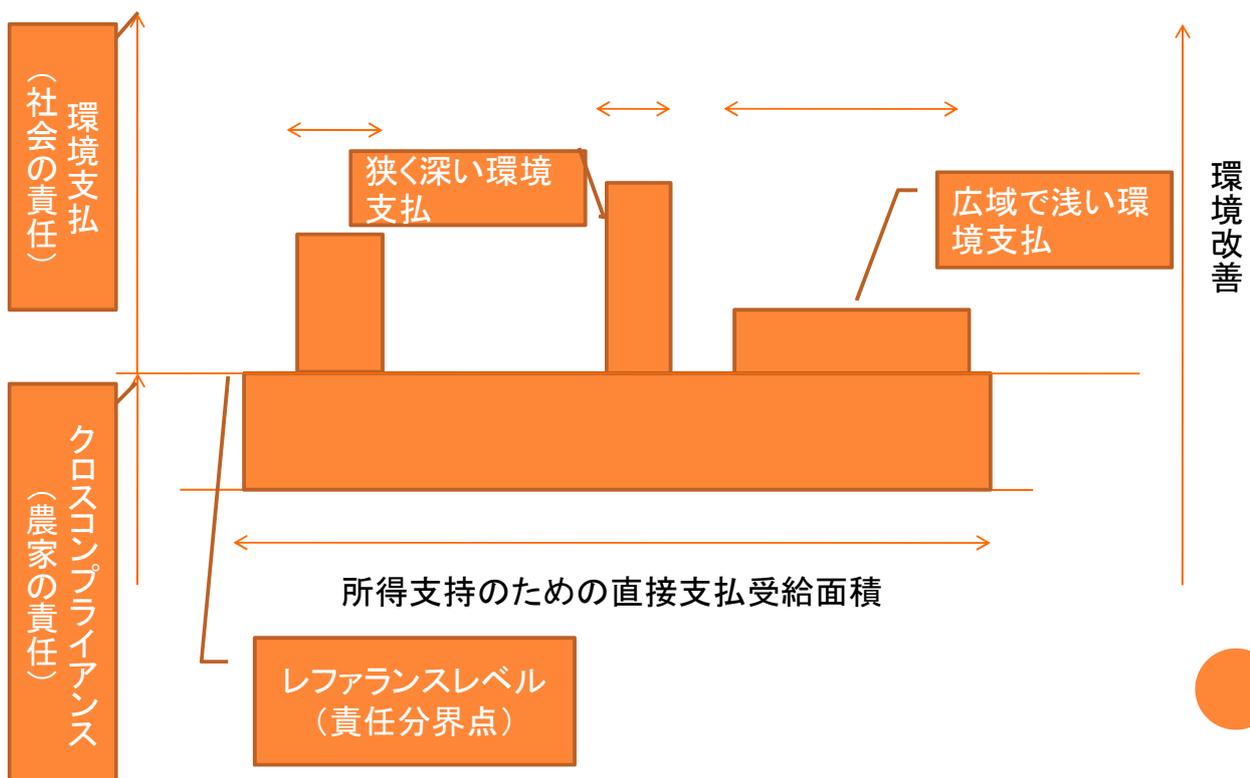
⇒「常識的」な資源利用・環境保全レベル(レファランスレベル)を広範囲で確保

②レファランスレベルを超える行為に対して、農家に負担をかけない方式で持続性の改善

⇒「常識的」なラインを超える行為に対しては、「環境支払い」

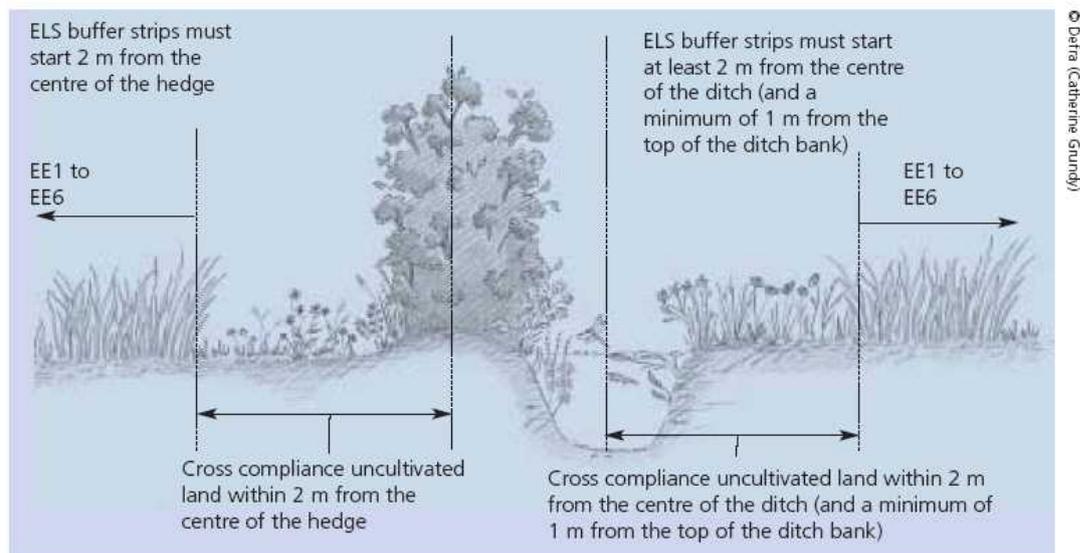
「政策的レファランスレベル確立型」

4.政策主導による持続性確保の取り組み



4.政策主導による持続性確保の取り組み

□ 環境支払いとクロスコンプライアンス: イングランドの一事例



出典: Entry Level Stewardship Handbook, UK Rural Development Service

5.我が国における持続性確保のためのGAPの役割

①所得支持のための直接支払いの導入が進んでいないために、クロスコンプライアンスをかけにくい。

⇒広範囲に「常識的な農法」(レファランスレベル)を徹底できない(単純な規制を課すオプションは取りにくい)

②そのため、GAPがレファランスレベルとしての役割を果たす可能性

「GAPレファランスレベル代替型」

⇒ただし、GAPにおける持続性に関する項目を拡充する必要?

EUの「レファランスレベル」(クロスコンプライアンス:2013年までの条件の抜粋)のイメージ

環境課題	義務的規制	任意規制
土壌浸食: 適切な処置で土壌を保護	-最小土壌カバー -土壌に固有の状態を反映する最低限の土地管理	-段丘の保持
土壌有機物: 適切な慣行で土壌有機物レベルを保持	-刈り株管理	-輪作規格
土壌構造: 適切な措置で土壌構造を保持		-適切な機械の使用
最低限の保全: 最低限の保全を実施し、生息地の劣化を阻止	-適切な生垣、池、水路、樹木などが複数または単体で存在する場所の風景および地形の保持	-最低放牧頭数および適切な体制 生息地の設立または保護
	-望まない植生の農地への侵入を阻止 -永久牧草地の保護	- オリーブ樹木の侵食を阻止 -オリーブの森や蔓を良い生長状態に保つ
水の保護と管理: 水を汚染、流出などから保護し、水利用を管理する	--水路沿いにバッファストリップを設置(2012年までに実施) -灌漑のための水利用に許認可が必要な場合は、許認可プロセスを遵守する	

5.我が国における持続性確保のためのGAPの役割

③もうひとつの「モデル」の可能性

- 「浅く広い」環境支払いを展開することにより、持続性に係るレファランスレベルを暗黙裡に設定
- そのレファランスレベルをGAP項目に組み込む

「環境支払い牽引型」

⇒持続性に係る「強固」なレファランスレベルを容易にかつ広範囲に設定できる。GAPと組み合わせることにより認証等を効率化。



6.「農村のブランド化」に向けて

①持続的な農業の面的な広がり＝「農村のブランド」化

- 安全・安心な農産物＋持続的な環境・景観・コミュニティによる「農村のブランド化」
 - ▶農村の定住のための基盤
- インバウンドの前提条件としても有効

②将来世代への選択肢の継承

- 「資本」の継承

